

よろずは

平成二八年

十月号

歌碑めぐり 18

山代久世乃鷺坂自神代 春者張乍秋者散来「碑文」
山城の久世の鷺坂神代より春は張つゝ秋は散りけり

山城の久世の鷺坂よ。神代の昔から久しく春は芽ぶきつづけ、秋は葉を散らして来たことだ。 卷九の一七〇七番歌

東京都文京区小日向二丁目にある高台は、通称「久世山」といいます。江戸時代、老中をつとめた旧関宿藩主・久世大和守の下屋敷があったことによるものです。

ここには現在「鷺坂」という名の坂があり、右の万葉歌を刻んだ石柱が建っています。揮毫者は堀口九萬一、昭和7年（一九三二）の建碑です。ただし歌は山城国（今の京都府）を詠んだもので、当地のものではありません。

かつて久世山の近郊には、詩人で仏文学者の堀口大学やその父・堀口九萬一、同じく詩人の三好達治、佐藤春夫が住んでいました。彼らの発案によって「山城の久世の鷺坂」の万葉歌から、久世山の坂道のひとつが鷺坂と名付けられたとされています。この歌碑はその命名の歴史を物語っています。

【万葉古代学係】



（東京都文京区）